



心を桜が受ける



桜から見る人々は、本当にさまざまな気持ちで花を見に来てくれている。桜の花の下に、受け止めきれないほど、いろいろな考え方、喜びや悲しみを見ることが出来る。桜ほど人間の心を歓喜させる花はないと思う。冬場は部屋に閉じこもっていた人々を、木いっぱい花を咲かせ早く見に来ないと「3日か見ぬまの桜かな」と終ってしまうよと誘い出す。そして、飲めや歌えと踊り出させる。魔力の花であり日本の花だと思う。大昔から桜は人々に愛され、愛したのではないのでしょうか。

撮影 平成27年4月2日・17日

桜に 感謝



私達は、2年前に上野の桜を見に行き、そこで知り合いました。いいお付き合いが出来、今年はゴールインになるかも。私たちを結び付けた、満開の桜に「いえー、幸せたよ」と叫びたいと、初々しいカップルは溢れんばかりの笑顔で語ってくれた。

初 々 し さ



美しく咲いている、桜を見ていると、子供達の入学式の頃を思い出す。子供への夢と希望に満ち溢れていた頃、弾む心をそうと包みこんで、見守りつづけている八重桜。桜を見ていると新鮮なさわやかな気持ちになります、と東立石の中川さん。

散 る 花

桜は、美しく綺麗に咲いて、皆さんを喜ばしてくれる。近くから遠くからも大勢の方が見に来てくれる。綺麗なあとは大変です。舞い降りた花びらは踏みつけられ、掃除も大変、葉桜になると、毛虫が這い出て、部屋に忍びこんだり洗濯物に付いたり、私は「い・や・で・す」



希望

家族一家で桜の花の美しさを見物に来て、花の美しさを年々見て、子供達が大きくなった時、家族皆で花見見物をしたことを、心の何処かに残してあげたい、と若きパパが熱く語って下さった。



楽しむ

人生



綺麗な人生を送るには、綺麗な心でお付き合い、桜のピンクの色はね、あの花のピンクから取ると思うのですが、それとは全然違う、幹や根のゴツゴツしたところから、ピンクの色を出すのですとリーダ格の遠藤春子さんに教えて頂きました。

母校は輝いている



葛飾野高等学校の前を自転車で通り過ぎろうとしたところ、満開に咲く桜の向こうに、母校が輝いて見えたので「あ・あ・綺麗。これは同期の人にメールして教えてあげなくては」と思わずシャッターをきった。入学式の桜を見ると新鮮な初々しい気持ちになります、と言って走り去って行った。

花びらを拾う少女

(花びらで首飾りを作るの) と。小さな女の子の手のなかには、舞い降りた桜の花びらは一歩ずつ首飾りに近づいている。桜への思いは首飾りから始まり、その思いは四方八方へ深まって行くような気がします。



桜の吹雪

花にはあまり興味がなかったけれど、3年前に桜吹雪の真ただ中に遭遇し、それ以来は桜吹雪の虜になり、今年もその幻想の世界に、浸りたく遠回りをして来てます。



思い出は

3年前にご主人を失った。桜の咲いている中を、二人でここを歩いた、思い出のある桜に触れて、主人をしのでいられた。どこかロマンチックな物静かな、奥戸から来られた奥さん。



毎日の散歩

この桜通りの道は、毎日犬との散歩みちです。桜の花の咲く光景や散る情景を見るのは楽しいけれども、それよりモット可愛いワンちゃん、うまく上手に写してね、とポーズを作る、お犬様さまです。

綺麗に咲いたよ

母さん



昨年母親と桜を見に来て、ここで桜の満開を背にして映した写真が、今は遺影になってしまった。今年も綺麗に咲いた桜を、仏壇に飾ってあげるよね、・・・！